

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

総設問数はほぼ同じであった(32→31)。昨年と比較すると、得点しやすい設問が増加したため、全体としてやや易しくなった。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年から大きな傾向の変化はなく、問題文や図、グラフを読み取って判断する思考力を要する問題が出題された。

その他トピックス

第1問では、毎年出題されていた構造決定の設問がなかった。

第1問Ⅰの図1-2の実験装置(ディーン・スターク装置)を用いたエステル化は、今年度の直前講習 東大化学テスト第1講 第1問Ⅱがズバリ!的中した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	Ⅰ 記述, 論述 計算	有機	化学	エステルの合成実験	標準
	Ⅱ 記述, 論述	有機	化学	単糖類の還元性, 立体異性体	標準
第2問	Ⅰ 記述, 論述 計算	無機, 理論	化学基礎 化学	両性金属, クロムを含むイオンの反応, 酸化還元滴定	標準
	Ⅱ 記述, 論述 計算, 選択	無機, 理論	化学	金と銀の性質・反応・分離, 錯イオン化の平衡, 電気分解	標準
第3問	Ⅰ 記述, 論述 計算, 選択	理論	化学	実在気体, ヘンリーの法則	やや難
	Ⅱ 記述, 論述 計算	理論	化学	リン酸の滴定曲線 (電離平衡, 緩衝液, 塩の加水分解)	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

数多くの演習問題を解いて、思考力と計算力を養おう。目新しい題材が取り上げられることも多いので、問題文の情報を読み取り、知識や原理・法則と組み合わせて判断する力を養おう。さらに、論述問題の対策も十分に積んでおこう。